

## 平成28年度第3回総会議事録

- ・日 時 12月4日(日曜日)  
午後2時～4時 総会
- ・場 所 パラリンピックサポートセンター2F会議室  
東京都港区赤坂 1-2-2  
電話 03-6229-5423
- ・議題
- 1、 定足数の確認  
出席理事；吉田進、石田直章、城隆志、岡田有史、中ノ瀬啓作、高橋省吾、三浦浩、  
福嶋康人、仲博幸、宇城元、吉田寿子、竹田将広以上 12名  
委任状出席；中元、瀬尾、金谷、大堂、岡本、古城 以上 6名  
欠席；向井英司
  - 2、 議長と議事録確認者の選定  
議長、吉田進 議事録確認者、三浦浩、仲博幸
  - 3、 コンプライアンス、ホームページ等連盟整備について  
8月の第二回連盟総会で、提出され、おおむね了解を得ていた選手規定、行動規範について、弁護士さんに中身を確認いただき、内容に問題ないとの回答を得た旨、事務局長より報告があった。審議の結果、選手規定、行動規範が全会一致で成立した。こちらの規程は、選手登録の際に、合意のチェックがないと選手登録が出来ないシステムを構築する旨、事務局より報告があった。  
また、ホームページの改良が完了した旨、事務局より報告があった。
  - 4、 第二号議案 向こう4年間の強化事業について、平成29年度行事予定について  
吉田進連盟理事長より、東京パラリンピックまでの4年間の強化事業について説明があった。「東京パラリンピックに向けて、メダルを獲得する」という目的のために、様々な事業を展開するが、その中で、IPC代表のジョン・エイモス氏を招聘すること、合宿を強化し、選手、コーチ、役員ともに、チームジャパンとして東京パラリンピックに向かう事が報告された。
  - 5、 第三号議案 リオパラリンピックの総括と東京パラリンピックの準備について  
リオパラリンピックに参加した石田直章監督、三浦浩選手からリオパラリンピックの報告があった。反省としては、チームジャパンとしての一体感に欠けてしまったこと、お互いのリスペクトが必ずしもあったとは言えなかったことが報告され、選手規定、行動規範の重要性を改めて確認した。また、選手選考規定の見直しも提案された。  
リオの報告では結果2名の選手が入賞した事は監督、コーチの連携の力もあった。体の負担を考えニューヨークで1泊出来た事もかなり楽だった。ワールドカップの経験が生かされた。  
東京パラリンピックに向けては、2017-2020 ワールド パラ パワーリフティングルールが変わり、新たな「東京パラへの道」が定められたことが事務局より報告された。また、従来のIPCパワーリフティングと言う名称は廃止となり、「ワールド パラ パワーリフティング」というのが、正式の名称となったことが報告された。
  - 6、 第四号議案 合宿所について、宿泊設備(知事への陳情)  
京都府がパワーリフティングのNTCに立候補し、NTCを設立してくださったことに感謝するものの、今の状態では、宿泊施設に問題が有り、多くの選手が参加をためらっている現状が報告された。

#### 宿泊設備の脆弱

この解決策の一つとして、12/16 に京都府知事に、リオの報告、合宿所の改善点、について、報告、陳情に行くことが報告された。参加者はリオ代表の三浦選手、西崎選手、岡本コーチ。連盟から、小林選手、中ノ瀬理事、吉田進理事長、仲監事が訪問することが報告された。

食事の脆弱;10月合宿から、毎回、京都リハビリテーション病院の栄養士2名が、合宿に参加し、連盟主催の講習会(10月はサプリメント)に参加したり、全日本に観戦に来られ、競技特性を学んでいただいていることが報告された。宿泊設備の充実と共に、食事面での充実も図っていく計画であることが報告された。

まだまだ、不十分な京都合宿所ではあるが、出来るだけ多くの選手に参加していただき、他国を見ても、どの国もチームとして動いていることを鑑みると、「チームジャパン」として今後活動していくことが大変重要になって来る、という見解で一致した。

また、ベテラン選手も日帰りでも良いので若い選手に練習姿勢やフォームなどを見せ、また、一緒にトレーニングすることも必要なので、ためらわず参加をしてほしいと事務局から伝えられた。

#### 7、 第五号議案 全日本選手権の反省について

\* 補助員 補助員の講習を昨年行い同じ補助員を募集したが、補助員の迅速行動改善が求められた。

\* 審判 判定が甘かった。審判は交代すべきであるという意見があったが、人材不足が報告された。長時間の審判では、集中力もかけてしまう。対策として、さらに審判試験を実施し増員をはかる。

\* TC 二人では、スムーズな運用は出来ず、今後は3名TCを設ける事となった。車いす選手の誘導や配置で持ち場を離れられない。アップ場が離れていることも含めスムーズな対応や運営が必要である為。

\* 判定ランプ 判定ランプ、重量表示、タイマーがなかったため、分かりにくい競技となった。事務局より、本年はウエサカより判定ランプを借りることが出来なかったことが報告され、次回は、必ず借りられるよう、もし、借りられなかった場合は、対応策を立てることとなった。

\* 上記の問題解消のため、次回からは、前日に2時間程度の講習会を開催し、役員には、参加を義務付けていくことになった。

\* 全日本の反省で大型スクリーンの導入は評判が良かった大会運営は人手不足はあったもののスムーズに行えた。

\* ネット配信も4万件の視聴が有りこちらも導入してよかった。

#### 8、 第六号議案 ワールドカップドバイ選手権について

団長 吉田進、監督 中ノ瀬啓作、トレーナー 山本浩由体制で参加することが確認された。その他として、審判は吉田寿子、審判研修は東前めぐみに参加することが報告された。

選手は、12/10 締切で募集中であることが報告された。また、ドバイについては、助成は一部支給とすることが確認された。

#### 9、 第七号議案 その他(IPC登録、東京パラへの道)

IPC登録方式が昨年までと異なることが報告された。それに伴い、IPC選手登録費の改定要請が事務局よりあった。登録費を4000円とするか5000円とするか議論され、6対6の同数で割れた。ルールにより、議長が選択するという事で、IPC登録費は、2017年度より5000円となることになった。

#### 10、 その他として、新たに世界大会参加標準記録を突破した選手の派遣交通費について議論され、事務局理解の世界標準突破＝国内交通費支給適用、と言う考え方と、翌年度からの支給、と言う考え方に割れた。こちらについては、理事に審議を預けることになった。

\*今年より強化指定選手の登録者及びアスリートチェックを終了した選手のみが、強化費使用対象選手対応となっているため、連盟より支給できるかどうか、理事の審議により決定することとなった。

- 11、新しいユニフォーム作成を検討することになった。ユニフォーム制作委員会として、城隆志、三浦浩、吉田寿子の3名が指名された。

\*新規ユニフォームの作成代金は各個人払いとなる場合もあることが確認された。

以上、予定審議事項が終わったので、議長より閉会の辞が述べられた。

記録;吉田寿子、事務局長



議事録署名人

仲 博幸

連盟監事



三浦 浩

連盟正会員



以上